

—昭和二十年八月—

加賀乙彦の「戦争」

朗読劇

『永遠の都』

第6章「炎都」・第7章「異郷」より

20世紀の日本の歴史のなかで
もっとも暑かった夏の日、
何が起こったのか？
現代の日本文学を代表する作家の一人、
加賀乙彦の代表作『永遠の都』を通して、
戦争とは何であったのか、生命とは何か、
について思索をめぐらす。



期間限定オンライン配信

視聴方法は本学HPをご確認ください。

ワールドリベラルアーツセンター

検索

日時 **2020年 8月15日** 土
13時配信開始 8月31日終了予定

共催 名古屋外国語大学
ワールドリベラルアーツセンター、
日本ドストエフスキー協会

対象者 どなたでも視聴できます

出演者 加賀 乙彦、矢代 朝子、山本 芳樹、笠原 浩夫
亀山 郁夫、沼野 充義

schedule

Introduction 亀山 郁夫

Message 加賀 乙彦

朗読劇 矢代 朝子、山本 芳樹、笠原 浩夫

鼎談 矢代 朝子、亀山 郁夫、沼野 充義

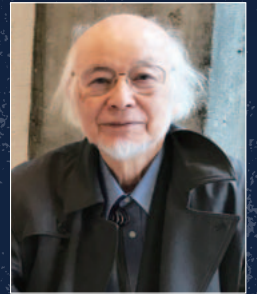
音響協力 小坂 登起

撮影 石黒 洋人 (CLUTCH)、勝部 誠
トーマス・ケニー

プロフィール

加賀 乙彦 (かが おとひこ)

小説家、精神科医。1929年東京生まれ。東京大学医学部卒業。精神医学および犯罪学研究のためフランス留学。帰国後、1968年「フランドルの冬」で小説家としてデビュー。代表作に「帰らざる夏」(谷崎賞)「宣告」(日本文学賞)「湿原」(大佛次郎賞)、など。近著として「雲の都」(2012年毎日出版文化賞企画特別賞)2016年には、「殉教者」を上梓。また、この春ロシアのケベリオン社より「永遠の都」ロシア語版が刊行された。1998年より、軽井沢高原文庫館長。



矢代 朝子 (やしろ あさこ)

文学座を経て、舞台、テレビドラマ、映画、ナレーションなどの俳優活動の他、エッセイ執筆などの文化活動も行う。加賀乙彦館長の要請により、軽井沢高原文庫理事となり、2011年11月、軽井沢演劇部を立ち上げ、文学展開連の朗読劇をスタート。現在は美術館とのコラボなどを含めて、年に数回の文学作品朗読公演を行っている。

笠原 浩夫 (かざはら ひろお)

劇団 Studio Life 所属。同じく劇団の代表作で主演、メインロールを務める。和洋、大劇場から企画公演まで外部でも広く活動。また、所属劇団による影絵劇全国小中学校巡回公演にて、語り手等を行っている。軽井沢演劇部には、2018年、福永武彦作品より参加。

山本 芳樹 (やまもと よしき)

劇団 Studio Life 所属。劇団の代表作で主演を務める他、翻訳劇、ミュージカル、朗読劇、ダンスパフォーマンス公演など外部公演でも活躍。定期的に音楽Liveも行い、自身が作詞、作曲を手掛けオリジナルCDアルバムをリリースするなど活躍は多岐にわたる。軽井沢演劇部には、結成時より参加。

亀山 郁夫 (かめやま いくお)

名古屋外国語大学学長
ワールドリベラルアーツセンター長

沼野 充義 (ぬまの みつよし)

名古屋外国語大学副学長
世界教養学部 教授、教養教育推進センター長

注意

本イベントは、動画配信のみで行われます。当日は大学でのイベントの聴講はできませんので、ご了承くださいませようお願いします。

問合せ先

名古屋外国語大学
ワールドリベラルアーツセンター

Tel: 0561-75-2164 (直通)
mail: wlac_gg@nufs.ac.jp



公開した動画の複製や再配布はご遠慮いただきますよう、
お願い申し上げます。



Facebook